

I 実践

1 本校の人権教育の目標

日本国憲法の概念である人権尊重の教育を生徒の発達段階や地域の実情をふまえながら推進し、学校教育活動全体を通して人権尊重の精神を高め、一人一人を大切にしたい教育の充実を図る。

2 実践内容

(1) 生徒の学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける学習指導の推進

育てたい生徒の姿を「学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を身に付けた生徒」とし、互いに学び合い認め合う中で、確かな学力を身につけさせることを目標としている。この授業づくりの根底として生徒相互の「他者を大切にしたい心」を育てることを大切にしている。全ての教科で、1時間の授業の中に小グループでの学び合いの時間を積極的に取り入れ、自分の考えが認められさまざまな友達の考えに触れることで、仲間と学ぶ楽しさを知り、自己肯定感を高めると同時に学ぶ意欲を高められるようにしている。(資料1, 2)



【資料1 授業の様子（小グループ）】



【資料2 授業の様子（相互学び）】



【資料3 人権教室の様子】

(2) 人権教室の実施

毎年、人権擁護委員の方々の協力を得て、1学年の全クラスを対象に人権教室を実施している。DVD「見上げた青い空」を鑑賞し、講師の方の講話をもとにいじめについて真剣に考え、積極的に話し合うことができた。(資料3)

(3) 人権作文や人権メッセージへの応募

毎年全員で人権メッセージの作成に取り組んでいる。道徳の授業などを通して、思いやりや命の大切さなどについて考えたことを、自分の言葉で発信することで人権感覚の育成を図っている。生徒の作品は廊下に掲示し、互いの考えを認め合う環境づくりに努めている。

(4) 総合的な学習の時間を通して

1学年では、「身近な地域における福祉について」をテーマとして毎年12月に地域の高齢者の方と交流会を行っている。交流会では、高齢者の方を招待して、パンポンや卓球などのスポーツ、けん玉やカルタ取りなどの昔遊びを一緒に行った。共に活動することで、



【資料4 ふれあい交流会①】

高齢者の方を身近に感じ、どういった接し方が望ましいかを学習した。(資料4, 5) また文化祭のクラス発表では、「ひたち生き生き百年塾」の方々に教わったマジックや影絵の発表をした。世代の違う方とふれあう百年塾の活動は、生徒の主体性を育むものとなった。



【資料5 ふれあい交流会②】



【資料6 百年塾：マジック】



【資料7 百年塾：影絵(アフレコ練習)】

(5) 道徳、学活の時間を通して

学活では老人ホームでお正月を迎えるお年寄りの方々への年賀状作りに取り組んだ。このように、面識のない他者に対して思いを寄せる活動を通して、思いやりの気持ちを育む活動を設けた。また道徳では、「被災地への贈りもの」として被災地の方々の心が温まるようにと、色鮮やかな土嚢作りに取り組んだ。土嚢用の袋に油性ペンでイラストを描きながら、「どんなものなら喜んでもらえるだろう」と思いを寄せながら、熱心に取り組むことができた。(資料8, 9)



【資料8 年賀状づくり】



【資料9 土嚢づくり】



【資料10 掲示：みんなの良いところ】

(6) 心と体を大切にするその他の取り組み

その他にも1年生で「喫煙防止教室」、2年生では「薬物乱用防止教室」、3年生では「性に関する学習会」を行っている。さらに本年度は2学年で「互いの良いところを見つけよう」というテーマで、日常生活の中から互いの良いところを見つけ、それを廊下に掲示し、互いを大切にするための心を育む場としている。(資料10)

3 一人ひとりの人権を尊重する学校全体での取り組み

(1) ハイパーQ Uテスト、いじめに関するアンケート、面談・教育相談の実施

年度当初の4月と年度途中の11月にハイパーQ Uテストを実施し、学級経営に生かしている。またいじめに関するアンケートを毎月行い、生徒が安心して学校生活を送れているかを把握できるよう努めている。その他に、二者面談を年三回(3年生は三者面談を含む)行い、事前の生活アンケートをもとに、一人一人が自立した生活を送れるよう支援している。

(2) 校長賞の授与

台原中では、3つの目標「時間を守る、迷惑をかけない、他の人の役に立つことをする」のもと、生徒と教師が同じ目標に向かって行動するよう心がけている。特に「他の人の役に立つ」という目標に向けて、生徒一人一人の良さががんばりを賞賛するために「校長賞」という制度を設けている。賞を受ける対象としては、学年、学級、個人などがあり、具体的内容としては、「ゴミ処理の手伝い」「牛乳パック処理」「友人を思いやる行動」「あいさつの良さ」「トイレの美化活動」など、教師が普段の行動の中に積極的に生徒の良いところを見つけ、自己肯定感が高まるようにしている。

4 成果

学校生活全体を通して、教師と生徒が共に「3つの目標」を心がけてきたことがより良い関係づくりにつながっていると感じられる。学校生活や授業に関する生徒アンケート結果では、「迷惑をかけないようにしている」で「そう思う」と答えた生徒が87.6%と、生徒の意識の高さが見られた。また、校長賞を通して、「あの人がこんないいことをしていたよ」、「あの人がすごいよね」などの肯定的な会話が見られ、行動で表そうとする生徒が増えている。

II 今後の課題

○学び合い活動では、グループという形態に満足するだけでなく、その中の役割分担等の工夫など、全ての生徒が自主的に取り組める授業づくりを心がける必要がある。

○継続的に学校全体で生徒一人ひとりを認め励ますことにより、自己肯定感の向上と共に、他者理解そして互いを大切にする気持ちをもって生活できるようにしたい。